

がんばったきみに

作文やポスターコンクールなどで優秀な成績をおさめた小中学生を紹介します
(敬称略)



第26回全国中学生人権作文コンテスト・奨励賞
(茨城県大会・最優秀賞)

僕の応援団長

協和中学校2年 長谷川 圭吾

「圭吾、大丈夫か？」

部活で疲れた僕に声をかけてくれる兄。家に着くと真つ先に兄の声が耳に入る。

兄は、言葉を上手に話すことができない。現在は、養護学校の高等部に通っているが、半年で卒業を迎える。片道九キロの距離を毎日元気に通学している。体力もあり、走ることも速い兄と自転車で競争すると、いつも負けてしまう。

僕は、サッカー部で毎日走っているし、放課後もボールを追いかけている。走ることに関しては、決して速いとは言えないが、毎日部活動をやっている僕にとって、兄に負けるわけがない。しかし自転車競争の結果は、いつも同じであった。

ある日の夕方、

「圭吾、勝負してみるか。」

ぼんやりテレビを見ていた僕に声をかけてきた。突然の事に驚いた僕に、兄は外へ出ると言った。地面に線を引き、走る構えを見せる兄。僕は、黙ってその横に並んだ。

「向こうの木の手前までだ。」

五十メートル程の距離。走ることは、勝てるだろうと思っ

た瞬間、

「よいい、ドン。」

兄の声で、スタートした。木に向かつて一直線に走った。兄の背を見てゴールイン。

「部活で疲れてたからね。」

負けた悔しさから、思わず口に出た。にっこり笑う兄の顔に、夕日が注ぐ。そんな兄が夕日よりもまぶしく見えた。

兄は、僕の通っている中学校の卒業生である。そのため僕が入学すると、先生から聞かれた。

「お兄ちゃん、元気か？」

「はい。」

何の迷いもなく、そう答えるのが普通であったし、当たり前であった。しかし、友だちに聞かれると、迷いがあった。

兄の通学途中に、中学校があり、兄は下校途中に中学校に寄る。それは先生と話をするのが楽しいらしく、

「今日は、〇〇先生と会った。」

「掃除を手伝った。」

話す顔は、喜びに満ちている。はつきりとした言葉ではないが、僕には兄の話している言葉がよく聞き取れる。笑顔で話す兄に反し僕の顔は曇っていく。兄は中学校に来て周

りを全く気にせず、大声で騒ぐこともあるからだ。友だちもそんな兄の姿を見て、声をかける。

「圭吾の兄ちゃんが来てるよ。」

兄の大声、友だちの声、僕は思わず耳をおおいたくなった。

（早く、帰って！）

心の奥で叫ぶ自分がいた。

しかし兄は、母校である中学校に寄って、先生方とのおしゃべりを家族のみんなに再現している。兄の体全体が幸せ、楽しさで満ちあふれている。家族の誰もが笑顔に包まれている。それを見た瞬間、僕の胸は痛んだ。苦しくなった。兄の事を考えず、自分の事はかり考えていた。

（いやだ、嫌いだ。）

走ることにだつて速い兄、自転車だつて僕よりすごいスピードである。しゃべる事が少し聞き取りにくいのが、それが何だ！いろいろな顔、さまざまな容姿、同じだろう。僕は僕に怒った。それから、兄の再現ドラマに引き込まれていった。

夏になると、僕のサッカーの試合を見に来ることも多くなった。

「圭吾、走れ！」

大声で叫ぶ。その声で僕はボールを追った。ちよつと照れくさくなった。

「パスしろー！」

兄の声にこたえ、大声で叫んだ。

「行くぞー！」

今までの気持ち吹っ切るように……。

チームメイトも僕の声にびつくりしたようだった。みんなが一齐に僕の方に振り向いた。

僕が蹴ったボールは、兄の声に押されるようにぐんぐんのび、見方にパスが繋がった。

僕の心は笑顔でいっぱいになった。

（兄ちゃんありがとう。）

僕の一番の応援団長。

試合で疲れ、家に着くと兄の声が僕の体に元気を与えた。

「プロみたいだなあ。うまいじゃねえか。」

「まあなあ。」

素っ気なく返事すると、部屋に入った。力強い応援団長のおかげだった。

兄の事を恥ずかしく思った自分が情けなかった。やっぱ兄ちゃんは兄ちゃんのままが一番だと思ふ。このまま、ずっと元気一杯の兄でいて欲しい。そのためには、僕の心と体をさらに磨き、強くすることである。これからも、僕の応援団長として、いつも元気な姿でいて欲しいと願っている。

第26回全国中学生人権作文コンテスト県大会・優秀賞



桜井 亜季
(下館西中2年)

高円宮杯第58回全日本中学校英語弁論大会県大会・県教育長賞



木村 知加
(下館中3年)

「大会では、多くの人たちと出会い、とても良い刺激になりました。もつともつと英語を勉強して、世界中の人たちとコミュニケーションを図りたいです。」

第35回小平記念作文最優秀賞



高崎 英雄
(養蚕小3年)



原田 千里
(協和中3年)



かわま 河間小学校

学校賞



すぎやま かほ
杉山 華保
(五所小6年)

県教育研究会学校図書館研究部会長賞



たきた けいと
滝田 京都
(伊讚小1年)

県教育長賞



うちだ けいichろう
内田 圭一郎
(河間小2年)

県議会議長賞

▼第34回茨城新聞小学生読書感想文
コンクール特別賞



知事賞の大山華奈さん、石堀三咲さんの作品



ねもと たかみち
根本 尚迪
(下館小1年)

防犯協会賞



いしほり みさき
石堀 三咲
おおやま かな
大山 華奈
(竹島小4年)

県知事賞

▼地域安全マップコンクール

この競技は、規定時間内に与えられた課題をキーボードで入力し、正確さと速さを競うもの。倉品さんは、5分間で1500字以上を打つほどの実力者。「小学5年生の時に珠算塾ではじめました。今は、週2日ぐらい練習しています。次回は一般の部で優勝をねらいます」。



くらしな ゆき
倉品 優紀
(協和中3年)

▼第4回パソコン入力コンクール
全国大会・文部科学大臣奨励賞



最優秀賞に輝いた、増田有麻さんの作品



ますだ ゆま
増田 有麻
(伊讚小6年)

▼第42回茨城県交通安全県民大会
交通安全ポスター・最優秀賞



たかさき ひとみ
高崎 仁美
(養蚕小5年)



なかざわ たまお
中沢 珠緒
(下館小3年)

▼第56年全国小中学校作文コンクール
県審査・最優秀賞